

# 三河の昆虫

MIKAWA NO KONCHU

The Mikawa Insects Association



2006年2月

〒444-3511  
岡崎市舞木町狐山6-4  
大平仁夫方  
三河昆虫研究会発行  
(郵便00830-9-14465)

## 岡崎市に北山湿地周辺に生息するギフチョウについて

杉坂美典

### 1 はじめに

岡崎市の北山湿地周辺に生息するギフチョウは、岡崎市環境部環境保全課が保護しており、採集禁止となっている。成虫の発生期には、ボランティアの方々が発生地をパトロールされ、環境の保全に努められている。

今から30年程前には、北山湿地がある池金町や近隣の保母町には、たくさんの本種が生息していた。そして、20年ほど前には激減したものの、ここ数年は、以前と同じようにたくさんの個体が見られるようになった。

その理由として、次のことが考えられる。

1つは、「北山湿地周辺の環境が改善されて、本種が棲みやすくなり、数を増やしたのではないか。」であり、もう1つは、「他の産地のギフチョウが、人為的に放蝶されたことによって、数を増やしたのではないか。」である。

そこで、これらの疑問を解決するため、私は、環境保全課より依頼を受け、平成17年4月、北山湿地周辺に生息する本種についての調査を行った。

### 2 ギフチョウの分布域について

日本の固有種であるギフチョウの祖先は、中国大陸に発生したヒメギフチョウに近い種であったと言われている。そして、その種の一部が朝鮮半島を経て日本に渡ってきたのち、朝鮮半島と日本が海峡によって分離されたことによって日本に取り残された種が、ギフチョウとして分化し、日本の固有種となったようである。その後、本種は、九州・中国地方を経て近畿地方まで、さらに日本

海沿いに北陸地方へ分布を広げた。また、太平洋岸では、近畿地方から東海地方、関東地方へと分布を広げていった。

東海地方では、岐阜県揖斐郡揖斐川町の谷汲付近には多産し、岐阜県南部の都市部北側の周辺を取り巻くように分布し、多治見市や土岐市に分布している。さらに愛知県では、犬山市、瀬戸市、長久手町、豊田市、岡崎市、額田町、作手村、音羽町、豊川市、豊橋市など、都市部に隣接する丘陵地に局所的に分布し、静岡県西部までほぼ連続して分布している。さらに、空白地帯を経て、静岡県の東部にまで分布している。関東地方では、唯一、神奈川県津久井郡藤野町に生息している。

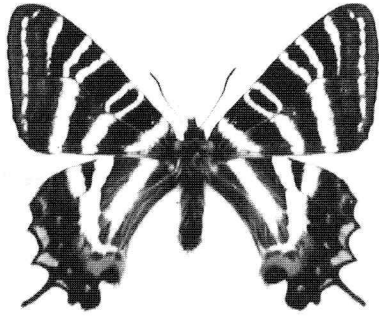
この東海地方に分布するグループは、岐阜県から静岡県西部まで、その変異の傾向は連続している。

岐阜県の谷汲に産する個体は、黄色斑が発達せず、黒っぽいギフチョウである。ここから東に分布するに従って、黄色斑や後翅後角部の赤色斑、後翅亜外縁の青色斑などが徐々に発達していき、見た目に美しいギフチョウとなっていく傾向にある。

しかし、最近では、山林が自然開発によって宅地化され、本種が見られなくなった場所も多い。また、山林に人手が入らないために樹木が育ち、本種の食草であるカンアオイ類に日光が当たらないため、カンアオイ類が育たず、姿を消していった産地も多い。

### 3 岡崎市近隣の産地のギフチョウの特徴

(1)岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲産の特徴(写真1参照)

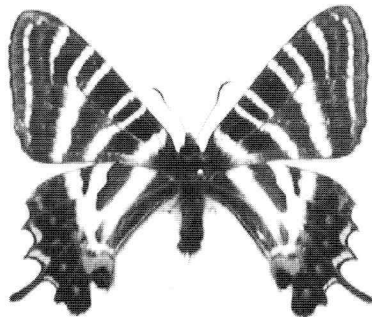


(写真1) 岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲産

谷汲産は、前後翅とも黒斑がよく発達するため、黄色斑は逆に細くなる傾向にある。特に、後翅の中室付近の黒帯と後角付近のしずく状の黒斑との間に小黑斑を有するため、黒帯がほぼ連続するような斑紋を持つ個体が3割ほど発生する。

後翅後角部の赤色斑は、東海地方産のものに比べるとやや幅が狭く、やや褐色味を帯びる個体も出現する。後翅外縁の褐色斑はあまり発達せず、後翅亜外縁の青色斑もあまり発達しない個体が多い。

#### (2) 岐阜県多治見市市之倉町産の特徴 (写真2参照)

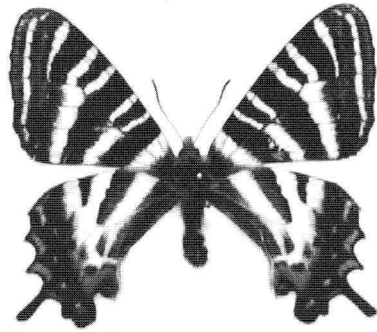


(写真2) 岐阜県多治見市市之倉町産

谷汲産に比べると、黄色斑が発達する。後翅の中室付近の黒帯と後角付近のしずく状の黒斑との間に小黑斑を有する割合は、1割ほどである。後翅後角部の赤色斑や後翅外縁の褐色斑、後翅亜外縁の青色斑もかなり発達する個体が多い。

#### (3) 愛知県岡崎市産の特徴 (写真3参照)

谷汲産に比べると、黄色斑がよく発達する。後翅の中室付近の黒帯と後角付近のしずく状の黒斑との間に小黑斑を有する個体は、ほとんど見られない。



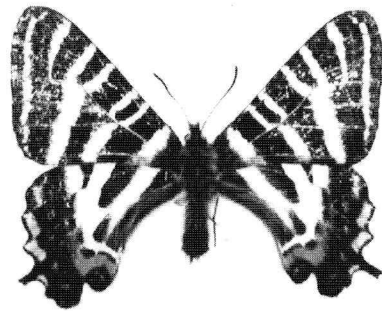
(写真3) 愛知県岡崎市産

後翅後角部の赤色斑や後翅外縁の褐色斑、後翅亜外縁の青色斑もよく発達する個体が多い。

#### (4) 愛知県豊橋市産の特徴 (写真4参照)

谷汲産に比べると、黄色斑はとてもよく発達し、翅全体が黄色味を帯びた感じになる。後翅の中室付近の黒帯と後角付近のしずく状の黒斑との間に小黑斑を有する個体は、ほとんど見られない。

後翅後角部の赤色斑や後翅外縁の褐色斑、後翅亜外縁の青色斑もよく発達する個体が多い。



(写真4) 愛知県豊橋市産

#### 4 池金町産ギフチョウの発生状況の推移とその理由

今から30年程前の1970年頃から80年頃までは、池金町の北山湿地の周辺だけではなく、ゴルフ場の西の火薬倉庫の周辺や保母町にも、本種は広く分布し、1日で数十頭を確認できる状況であった。しかし、1985年頃からは、その数を年々減らしていき、数年後には、ほとんど見られない状況にまでなってしまった。理由は、次の2つであった。

第1の理由は、日本の各地から採集者が訪れるようになり、成虫を乱獲するだけでなく、卵や食草のヒメカンアオイまでも採取してしまうことであ

った。

第2の理由は、本種の食草のヒメカンアオイは、木漏れ日がある樹林の下草であり、樹林が成長して日光が地表に届きにくくなったり、他の下草が生長して日光が届きにくくなったりして、ヒメカンアオイが生長しにくくなったことである。

しかし、1998年頃から数を増やし始め、ここ数年間は、30年程前の状況と変わらない程に回復している。

その理由はいくつか考えられる。

1つ目は、環境保全のボランティアの方々が、北山湿地周辺の環境を保全するために活動されていることが大きく影響していると考えられる。

密生した樹林を間伐したり、下草刈りをしたりして、ヒメカンアオイの生長を助けていることが、本種の食草の確保につながっている。

2つ目は、岡崎市がこの地域の本種を保護するための看板を設置し、ボランティアの方々や監視員の方々が採集をしないようにパトロールをされていることによって、成虫や卵の乱獲がなくなったことによるものと考えられる。

3つ目は、北山湿地の入り口にあるトラウトポイントに釣りに訪れる方々が、入山者に対して目を効かすようになっていることである。大勢の人目による自然破壊への抑止効果が現れている。

その実証として、ゴルフ場の西の火薬倉庫の周辺では、人手が入っていないために樹木が育ち過ぎ、下草が密生し、ヒメカンアオイは、ほとんど見られなくなった。したがって、現在、この地域では、本種は見られない。

### 5 池金町産ギフチョウの2005年における発生状況の詳細

例年では、3月下旬から成虫が発生するのですが、2005年は、春の訪れが1週間ほど遅く、4月上旬になってようやくその姿を現した。

調査の結果は次のようである。

- ・ 4月 2日 (土) 成虫の確認数 0
- ・ 4月 9日 (土) 成虫の確認数 15  
卵塊の確認数 0
- ・ 4月16日 (土) 成虫の確認数 30

卵塊の確認数 0

・ 4月24日 (日) 成虫の確認数 8

卵塊の確認数 35

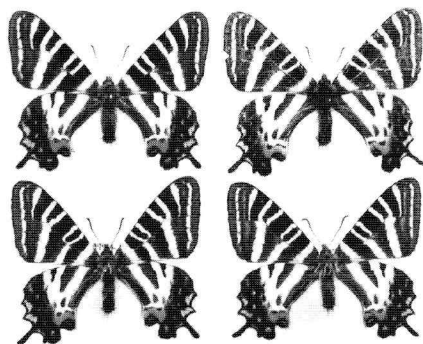
※1つの卵塊には、10卵程の卵が産まれていた。

### 6 池金町産ギフチョウの他地域産との混雑の可能性

10年程前から本種が数を増やした理由として、他地域産の成虫や蛹が放たれたことによるものではないかという噂がささやかれるようになった。

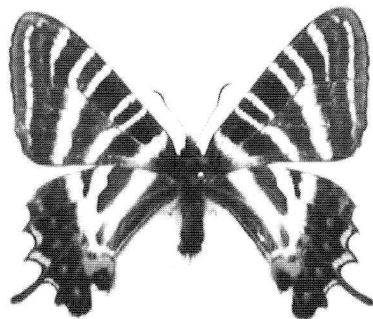
そこで、30年ほど前に池金町で採集された個体群と2005年に発生した個体群とを比較し、その可能性について考察してみた。

まず、私は、池金町で発生している本種の採集許可を、岡崎市から正式にいただき、9頭の個体を採集し、比較検証することにした。



(写真5) 1976年産

写真5は、1976年に池金町で採集された個体群である。岡崎市産の特徴をよく現しており、東海地方の本種の変異の連続性を証明している。



(写真6) 2005年産

写真6は、2005年に池金町で採集した個体群で

ある。両群を比較して、その差異は、全くないことが分かる。

これによって、他の地域産の成虫や蛹が放たれたことがないか、もしくは放たれたとしても、岡崎市産の特徴を崩すものではないことが分かった。

#### 7 池金町産ギフチョウの今後の盛衰状況についての予想

本種の天敵となる昆虫は知られていないことや飼育が容易で、卵から蛹までは、生育環境の変化に強いことから、地球温暖化などの天候の変化には、あまり影響を受けない種ではないかと考えられる。

そこで、本種の発生の盛衰は、人間による乱獲を防ぐことやヒメカンアオイの生育環境の維持を図ることによって、現在の状況を今後も保つことができるものと思われる。

#### 参考文献

「ギフチョウ・ヒメギフチョウ」

著者：田淵行男 発行：講談社

「日本産蝶類大図鑑」

著者：藤岡知夫 発行：講談社

「岡崎市の蝶」

著者：杉坂美典 発行：岡崎市教育委員会

## 三河地方でマメチビタマムシとサシゲチビタマムシを採集

城 殿 浩

筆者は、愛知県三河地方において、愛知県内でも採集記録のあまりないマメチビタマムシを三河地域の数ヶ所で採集することが出来たのでここに報告する。

また、同様に県内においてあまり採集記録のないサシゲチビタマムシを1ヶ所であるが採集することができたのであわせてここに報告する。

#### 1. マメチビタマムシ

*Trachys reitteri* Obenberger

2exs:豊田市松平町、2.IX.2005

17exs:豊田市羽布ダム、23.IX.2005 (旧下山村)

1ex:豊田市小田木町、25.IX.2005 (旧稲武町)

1ex:豊田市上八木町、25.IX.2005 (旧足助町)

いづれも、やや日陰のマメ科植物の葉上にて採集。

#### 2. サシゲチビタマムシ

*Trachys robusta* E.Saunders

1ex:岡崎市村積山、14.V.2005

シイのスイーピングにより得られた。

#### 参考文献

愛知県農地林務部自然保護課 (1990) 愛知県の昆虫 (上)

## 愛知県でクチキクチヒゲムシを採集

城 殿 浩

筆者は、愛知県では稀と思われる、クチキクチヒゲムシ *Sandalus segnis* Lewisを採集することが出来たのでここに報告する。

1ex:豊田市上八木町、29.V.2005 (旧足助町)

県道の路上を歩行中?の個体を採集した。

#### 参考文献

愛知県農地林務部自然保護課 (1990) 愛知県の昆虫 (上)



## 三河港造成地のハムシ相

山崎 隆 弘

愛知県三河湾東部臨海地は、三河港整備のための海岸埋立による土地造成が、蒲郡市、宝飯郡御津町、豊橋市、田原市で行われてきた。着工の早い場所では、工場が建ち並び、港湾設備もほぼ整った状況である。しかし、場所によっては、埋立て直後のものから、数十年が経過したものなど様々である。随所には緑地や公園があり、種々の樹木が植栽され、自然的景観を呈している。

筆者はここ数年来、新造成地への昆虫類の進出と定着の推移に興味を持ち、ハムシ科甲虫の調査を行ってきたのでその概要を報告したい。データは紙面の都合で1例のみとし、採集者はすべて筆者である。現地調査にあたっては、折に触れお世話になった大平仁夫博士、浅岡孝知教諭に対して厚くお礼申し上げる。

### ハムシ科 CHRYSOMELIDAE

#### ネクイハムシ亜科 Donaciinae

##### 1. ガガブタネクイハムシ

*Donacia lenzi* Schonfeldt, 1888

三河港造成地内では、豊橋市吉前町（長谷川・山崎1999）の記録が唯一である。湿原や湿地性の種であるが、愛知県の記録としては少ないものである。

#### クビボソハムシ亜科 Cryocerinae

##### 2. キバラリクビボソハムシ

*Lema concinnipennis* Baly, 1865

蒲郡市浜町亀岩公園, 3-VII-2005, 7exs.

愛知県では、主として平地で記録されているが多くない。近隣の蒲郡市西浦半島などで記録がある。(図1-A)

##### 3. トホシクビボソハムシ

*Lema decempunctata* Geber, 1830

御津町御幸浜, 21-VI-2005, 2exs.

ほかに、豊橋市吉崎町、神野新田町総合スポーツ公園で採集した。また、豊橋市神野新田町海岸草地（長谷川・山崎1999）で記録がある。

##### 4. アカクビボソハムシ

*Lema diversa* Baly, 1873

豊橋市神野ふ頭町緑地公園, 19-VI-2005, 4exs.

近隣の平地に普通の種であるが、三河港造成地内ではまだ少ない。すべて、ツマキ型ab.lewisiiであり、周辺地域と同じである。

##### 5. ヤマイモハムシ

*Lema honorata* Baly, 1873

三河港造成地内では、豊橋市多門田（長谷川・山崎1999）の記録が唯一である。普通種であるが、三河港造成地内には食草ヤマノイモが少なく、こうした要因で進出できないものと思われる。

#### ツツハムシ亜科 Cryptocephalinae

##### 6. ジュウシホシツツハムシ

*Cryptocephalus tetra decaspilotus* Baly, 1873

三河港造成地内では、豊橋市明海町（長谷川・山崎1999）の記録が唯一である。工場地帯の中にある空地の草地から得られているがその後に見出されていない。愛知県下では作手村、鳳来町、新城市、豊橋市葦毛湿原から記録されているが珍しい種に属する。(図1-B)

##### 7. ウスグロスジツツハムシ

*Cryptocephalus fulvus* Goeze, 1777

蒲郡市海陽町, 3-VII-2005, 1ex.

体長2.0-2.5mmの小形種である。比較的新しい造成地の草地から得られた。愛知県からの記録はなく、これが初めてと思われる。その後、調査の度に注意したにもかかわらず、三河港造成地内では見出すことはできなかった。(図1-C)

## コブハムシ亜科 Chlamisinae

## 8. ツバキコブハムシ

*Chlamisus lewisii* (Baly, 1873)

御津町御幸浜, 30-XI-2004, 1 ex.

愛知県の南部に普通に見られる。三河港造成地内では食草ツバキ類が多く植栽されており、今後において各所で繁殖が考えられる。(図1-D)

## ツヤハムシ亜科 Lamprosomatinae

## 9. ドウガネツヤハムシ

*Oomorophoides cupreatus* (Baly, 1873)

三河港造成地内では、豊橋市吉前町(長谷川・山崎1999)の記録が唯一である。三河港造成地内には食草タラノキがほとんど無いため、普通種であるが見出せない。

## サルハムシ亜科 Eumolpinae

## 10. アオバネサルハムシ

*Basilepta fulvipes* (Motschulsky, 1860)

蒲郡市海陽町, 3-VII-2005, 2 exs.

ほかに、蒲郡市浜町、御津町御幸浜・佐脇浜・安礼の崎、豊橋市新西浜町・神野西町・神野新田町総合スポーツ公園・神野ふ頭町緑地公園・明海町・多門田・杉山町中藻、田原市白磯などで採集している。本種は、ほぼ全地域で繁殖が見られ、三河港造成地内の最普通種となっている。また、豊橋市の西浜町・神野西町・神野ふ頭町緑地公園・明海町・杉山町中藻(長谷川・山崎1999)で記録がある。本種は他の種に先がけて進出したものと考えられるが、その繁殖力の凄まじさには驚かされる。

## 11. イモサルハムシ

*Colasposoma dauricum* Mannerheim, 1849

豊橋市神野ふ頭町緑地公園, 19-VI-2005, 9 exs.

確認地では多くを採集しているが、三河港造成地内ではこれが唯一の記録地である。しかし、周辺地域では比較的普通に見られることや、食草ヒルガオ類も多くあることから、各所で追加されるものと思われる。

## 12. カサハラハムシ

*Demotina modesta* Baly, 1874

豊橋市神野ふ頭町緑地公園, 5-VII-2005, 12 exs.

確認地の植栽木では多数生息していたが、食草のナラ類は三河港造成地内でもよく見掛けるにも関わらず、本種は今のところ1ヶ所のみである。周辺地域では普通に見られる種である。

## 13. クロオビカサハラハムシ

*Hyperaxis fasciata* (Baly, 1874)

御津町安礼の崎, 9-V-2005, 2 exs.

植栽林で得られたが、個体数は少なかった。普通種であるが、三河港造成地内ではこの1例のみであった。

## 14. ニホンケブカサルハムシ

*Lypesthes japonicus* Ohno, 1958

豊橋市新西浜町, 27-V-2005, 27 exs.

大規模の植栽林の縁で多数の生息を確認することができたが、今のところ三河港造成地内ではこの場所のみである。愛知県下では意外と記録の少ない種で、尾張の祖父江町と豊橋市表浜の小島町があるにすぎない。周辺地域からの移入かと考え、近隣の調査時において注意したが見出せなかった。本種は恐らく植栽用の樹木に付いて移入した可能性が高い。近隣の蒲郡市御堂山では同属のケブカサルハムシ *Lypesthes Lewisi* (Baly) が豊富に生息しているが、本種については三河港造成地内からはまだ見出していない。(図1-E)

## 15. アオガネヒメサルハムシ

*Nodina chalcosoma* Baly

蒲郡市海陽町, 19-IX-2004, 1 ex.

普通種であるが、三河港造成地内では今のところこの一例だけである。近隣の御堂山や西浦半島で普通である。

## 16. ヒメキバネサルハムシ

*Pagria signata* (Motschulsky, 1858)

御津町安礼の崎, 3-VI-2005, 4 exs.

ほかに、蒲郡市海陽町、豊橋市新西浜町・神野西町・神野新田町総合スポーツ公園、田原市緑ヶ浜・白磯で採集した。また、豊橋市新西浜町・神野西町(長谷川・山崎1999)で記録がある。秋季にも個体数が多い。繁殖力旺盛な種である。

## 17. ドウガネサルハムシ

*Scelodonta lewisii* Baly, 1874

御津町安礼の崎, 3-VI-2005, 1ex.

ほかに、蒲郡市浜町、御津町御幸浜、豊橋市新西浜町・吉前海岸・多門田、田原市緑ヶ浜で採集している。普通種で、周辺部から普通に移入したものと思われる。また、豊橋市吉前町（長谷川・山崎1999）で記録がある。

ハムシ亜科 Chrysomelinae

18. ヨモギハムシ

*Chrysolina aurichalcea* (Mannerheim,1825)

御津町佐脇浜, 24-XI-2004, 1ex.

ほかに、蒲郡市海陽町、御津町御幸浜、豊橋市新西浜町、田原市緑ヶ浜で採集している。周辺地域でもごく普通の種である。また、豊橋市新西浜町・杉山町中藻（長谷川・山崎1999）で記録がある。食草のヨモギの繁殖に比例して普通に定着した種の一つである。三河港造成地内ではアオグロ系が優位である。

19. コガタルリハムシ

*Gastrophysa atrocyanea* Motschulsky,1860

御津町御幸浜, 5-IV-2005, 5exs.

ほかに、御津町佐脇浜・安礼の崎、豊橋市杉山町中藻で採集している。また、豊橋市吉崎町・神

野新田町海岸（長谷川・山崎1999）で記録がある。

三河港造成地内では、食草ギシギシは随所に生育している。周辺地域に普通である。

20. ヤナギルリハムシ

*Plagioderma versicolora* (Laicharting,1781)

田原市緑ヶ浜, 30-IV-2005, 1ex.

ほかに、蒲郡市海陽町で採集している。確認地のヤナギ類に普通である。また、豊橋市吉崎町（長谷川・山崎1999）で記録がある。

ヒゲナガハムシ亜科 Galerucinae

21. ウリハムシ

*Aulacophora femoralis* (Motschulsky,1857)

蒲郡市海陽町, 19-IX-2004, 2exs.

ほかに、豊橋市神野西町・杉山町中藻で採集している。ウリ類の害虫として著名であるが、三河港造成地内では予想に反して多くなかった。

22. クロウリハムシ

*Aulacophora nigripennis* Motschulsky,1857

御津町御幸浜, 23-V-2005, 1ex.

ほかに、豊橋市新西浜町・神野ふ頭町緑地公園・多門田・杉山町中藻で採集している。三河地方の南部にきわめて普通の種である。

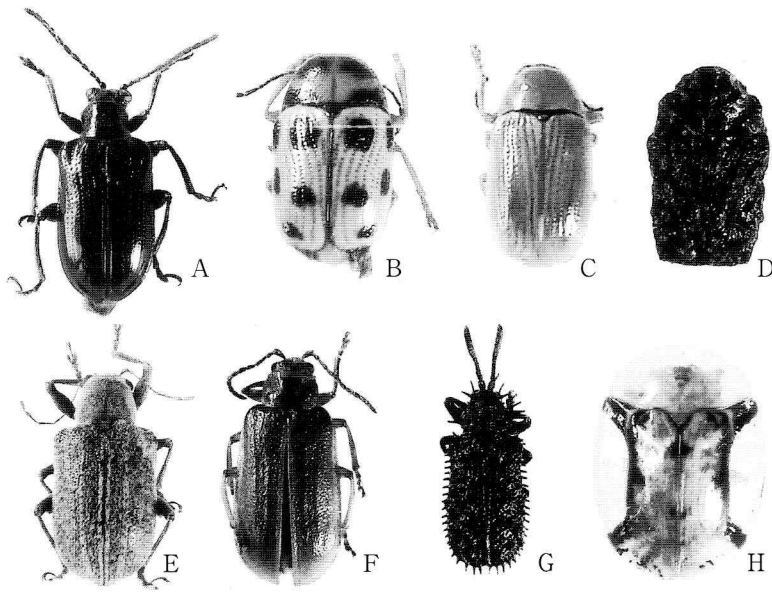


図1 三河港造成地で採集したハムシ類

- A. キバラルリクビボソハムシ
- B. ジュウシホシツツハムシ
- C. ウスグロツツハムシ
- D. ツバキコブハムシ
- E. ニホンケブカサルハムシ
- F. ジュンサイハムシ
- G. クロトゲハムシ
- H. スキバジンガサハムシ

## 23. クワハムシ

*Fleutiauxia armata* (Baly,1874)

田原市白磯, 24-XI-2004, 1ex.

ほかに、御津町安礼の崎、豊橋市神野新田町防波堤中州・明海町・杉山町中藻で採集している。また、豊橋市神野新田町海岸・豊橋市明海町(長谷川・山崎1999)で記録がある。

## 24. イチゴハムシ

*Galerucella grisescens* (Joannis,1866)

三河港造成地内では、豊橋市杉山町中藻(長谷川・山崎1999)の記録のみである。湿地性の種であるので、同様の環境があれば、随時定着してゆくものと思われる。

## 25. ジュンサイハムシ

*Galerucella nipponensis* (Laboissiere,1874)

豊橋市神野ふ頭町緑地公園, 5-VII-2005, 1ex.

ほかに、豊橋市神野新田町総合スポーツ公園で採集している。また、豊橋市吉崎町・豊橋市神野新田町海岸(長谷川・山崎1999)で記録がある。前種同様湿地性の種である。(図1-F)

## 26. フタスジヒメハムシ

*Medythia nigrobilineata* (Motschulsky,1860)

蒲郡市海陽町, 19-IX-2004, 2exs.

ほかに、豊橋市新西浜町・杉山町中藻(長谷川・山崎1999)で記録がある。草地で見出される。

## 27. ホタルハムシ

*Monolepta dichroa* Harold,1877

三河港造成地内では、豊橋市明海町(長谷川・山崎1999)の記録のみである。普通種であるが、他所からは見出していない。

## 28. サンゴジュハムシ

*Pyrrhalta humeralis* (Chen,1942)

御津町御幸浜, 21-VI-2005, 3exs.

ほかに、豊橋市明海町で採集している。この地方のサンゴジュに普通である。

## 29. エノキハムシ

*Pyrrhalta tibialis* (Baly,1874)

豊橋市新西浜町, 24-VI-2005, 7exs.

ほかに、豊橋市神野ふ頭町緑地公園・神野新田総合スポーツ公園・杉山町中藻、田原市白磯で採集している。また、豊橋市杉山町中藻(長谷川・

山崎1999)で記録がある。確認場所ではいずれもエノキに多産していた。

## ノミハムシ亜科 Alticinae

## 30. ヒメカミナリハムシ

*Altica caerulea* (Baly,1874)

御津町御幸浜, 30-XI-2004, 1ex.

やや普通の種で周辺地域でもよく見られるが、三河港造成地内では、まだ、1ヶ所から見出したにすぎない。

## 31. カミナリハムシ

*Altica cyanea* (Weber,1801)

豊橋市杉山町中藻, 24-V-2005, 1ex.

ほかに、豊橋市吉前町(長谷川・山崎1999)で記録がある。三河港造成地内では少ない。

## 32. コカミナリハムシ

*Altica viridicyanea* (Baly,1874)

蒲郡市浜町亀岩公園, 3-VII-2005, 1ex.

ほかに、豊橋市神野新田町海岸草地(長谷川・山崎1999)で記録がある。普通種であるが三河港造成地内では多くない。

## 33. サメハダツブノミハムシ

*Aphthona strigosa* Baly,1874

豊橋市杉山町中藻, 21-VI-2005, 1ex.

ほかに、御津町御幸浜、田原市白磯で採集している。普通種であるが局所的である。

## 34. ヘリグロテントウノミハムシ

*Argopistes coccinelliformis* Csiki,1940

豊橋市神野ふ頭町緑地公園, 19-VI-2005, 12exs.

ほかに、蒲郡市浜町亀岩公園、豊橋市新西浜町・明海町で採集している。豊橋市神野ふ頭町緑地公園では垣根の植込みに多くの個体が見られた。本種に酷似しているテントウノミハムシ *Argopistes biplagiatus* Motschulskyは、前胸背の前縁中央が前に突き出しているので区別できるが、三河港造成地内からは、まだ見出していない。食草はイボタである。

## 35. ヒメドウガネトビハムシ

*Chaetocnema concinnicollis* (Baly,1874)

神野新田町海岸草地(長谷川・山崎1999)の記録が唯一である。愛知県下では平地から山地まで

広く分布のみられる種である。

36. クロボシトビハムシ

*Longitarsus bimaculatus* (Baly,1874)

豊橋市明海町, 11-VI-1998, 1ex.

三河港造成地内ではこの一例のみである。愛知県からの記録上でも少ない。

37. オオアシナガトビハムシ

*Longitarsus nitidus* Jacoby,1885

豊橋市神野ふ頭町緑地公園, 5-VII-2005, 1ex.

ヨモギトビハムシに似るが、本種は体長が大きく、体は強く隆起する。北海道から九州に広く分布する。愛知県からは恐らく初めての記録と思われる。三河港造成地内ではこの一例のみである。

38. スイバトビハムシ

*Mantura clavereau* Heikertinger,1921

三河港造成地内では、豊橋市神野新田町海岸草地(長谷川・山崎1999)の記録のみである。本種は海岸部で記録されており、確認場所では多くの個体が見られる。

39. チャバネツヤハムシ

*Phygasia fulvipennis* (Baly,1874)

豊橋市神野新田町堰堤緑地, 30-IV-1995, 1ex.

普通種であるが、三河港造成地内ではこの記録のみである。

40. ルリナガスネトビハムシ

*Psylliodes bretteghami* Baly,1862

蒲郡市浜町亀岩公園, 3-VII-2005, 1ex.

ほかに、豊橋市神野ふ頭町で採集している。三河港造成地内では少ない。

41. ナスナガスネトビハムシ

*Psylliodes angusticollis* Baly,1874

御津町御幸浜, 30-XI-2004, 1ex.

ほかに、蒲郡市海陽町、御津町佐脇浜、豊橋市神野新田町総合スポーツ公園で採集している。周辺地域では普通の種であるので、今後も各所で見出されるものと思われる。

トゲハムシ亜科 HISPINAE

42. クロトゲハムシ

*Hispellina moerens* (Baly,1874)

豊橋市神野新田町堰堤, 29-XI-2004, 37exs.

晩秋に吹きさらしの枯草に多くの個体が見られた。豊橋市の吉前町、神野新田町海岸草地(長谷川・山崎1999)で記録がある。三河港造成地内ではこの他からはまだ見出されていない。(図1-G)

カメノコハムシ亜科 Cassidinae

43. ヒメジンガサハムシ

*Cassida fusciorufa* Motschulsky,1866

豊橋市神野新田町海岸(長谷川・山崎1999)で記録がある。普通種であるが、なぜか三河港造成地内では少ない。

44. スキバジンガサハムシ

*Aspidomorpha transparipennis*

(Motschulsky,1860)

豊橋市神野ふ頭町緑地公園, 5-VII-2005, 2exs.

周辺地域に多く分布している種なので、普通に移入したものと考えられる。三河港造成地内では食草ヒルガオも随所にあるため、今後、他所でも見出される可能性の高い種である。(図1-H)

45. ヒメカメノコハムシ

*Cassida piperata* Hope,1842

御津町安礼の崎, 24-VI-2005, 7exs.

ほかに、豊橋市新西浜町・神野ふ頭町緑地公園・杉山町中藻で確認している。また、豊橋市杉山町中藻(長谷川・山崎1999)で記録がある。近隣にきわめて普通に見られる種である。

参考文献

1. 木元新作・滝沢春雄(1994)日本産ハムシ類 幼虫・成虫分類図説。東海大学出版協会。
2. 長谷川道明・山崎隆弘(1999)動物・昆虫類・コウチュウ目。豊橋市自然環境保全基礎調査報告書, 309-335。豊橋市保健環境部環境対策課。
3. 山崎隆弘(2004)蒲郡市西浦半島のハムシ類。虫譜, 43(1): 17-20。
4. 山崎隆弘(2005)愛知県蒲郡市御堂山のハムシ類。三河の昆虫, (52): 596-600。
5. 山崎隆弘・穂積俊文(1990)愛知県のハムシ科。愛知県の昆虫(上): 634-640。

# 豊橋市・天伯湿原の昆虫

浅岡孝知

豊橋市の南部に位置する天伯湿原は、かつては周辺至る所に見られた平地に連続していた湿原である。湧水が粘土層上を流れている状態である。しかし、周辺の様相は開発などで一変して、わずかに残存したのが天伯神社境内である。

面積は小さいが、豊橋市では葦毛湿原に次ぐ規模である。地元では、小学生を中心にして保護活動を展開している。総合学習としてとらえ観察会、除草活動などが継続して実施されている。

また地元の有志で「天伯湿原保護の会・会長鳥山昌男」が2000年に結成され、会員は120名を超えている。湿原内に木道を設置するほか、湿原の回復作業も「葦毛湿原を守る会」の指導のもとで手がけている。



図1 秋の観察会の様子2005.9.3

ここでは、サギソウはじめシラタマホシクサ、ナガバナノイシモチソウ、ミミカキグサなど湿原に見られる湿性植物が見られる。葦毛湿原と似ている。また、昆虫ではハッチョウトンボの発生が顕著であるが、ヒメヒカゲは見だしていない。

ここでの調査は、恒川(1980)が報告をしている。その中にハッチョウトンボが報告されている。その後、東三河アマチュア昆虫研究グループ(1982)に一部報告が見られる。今回、筆者は2004~2005にかけての調査をすることができたので、その結果を報告する。飛翔していたチョウ類

は湿原内の目撃であり、すべてここでの生息種とは断定できない。筆者は、トンボ目、カメムシ目、コウチュウ目、チョウ目だけを調査対象とし、調査地は湿原の木道上から手の届く範囲とその背後の森林の接点だけとした。わずかばかりの試料であるが、今後の調査の参考になれば幸いである。

以下は目録と若干の説明である。目録の配列等は平嶋義宏監修(1989)日本産昆虫総目録に従っている。

## 目録

### トンボ目ODONATA

#### エゾトンボ科 Corduliidae

##### 1 オオヤマトンボ

*Epopthalmia elegans* (Brauer,1865)

浅岡(1980)に記録がある。

#### トンボ科 Libellulidae

##### 1 ハラビロトンボ

*Lyriothemis pachygastra* (Selys,1878)

浅岡(1980)に記録がある。

##### 2 オオシオカラトンボ

*Orthetrum triangulare melania* (Selys,1883)

27-VII-2004.1ex.目撃.

##### 3 シオカラトンボ

*Orthetrum albistylum speciosum* (Uhler,1858)

2-VI-2005.1ex.目撃.25-VII-2005.1ex.目撃.

##### 4 ヒメアカネ

*Sympetrum parvulum* (Bartenev,1912)

浅岡(1980)に記録がある。

##### 5 アキアカネ

*Sympetrum frequens* (Selys,1883)

浅岡(1980)に記録がある。

##### 6 ハッチョウトンボ

*Nannophya pygmaea* Rambur,1842

5-VI-2004.,多数目撃.2-VI-2005.,多数目撃.

## 7 ウスバキトンボ

*Pantala flavescens* (Fabricius,1798)

27-VIII-2004.多数目撃.

\*調査地の天伯町では、すぐ近くの水田上などで  
チョウトンボ *Rhyothemis fuliginosa*、ヤブヤンマ  
*Polycanthagyna melanictera*、ギンヤンマ *Anax*  
*parthenope julius*、オニヤンマ *Anotogaster*  
*sieboldii*の飛翔を確認している。ここでは参考記  
録とする。チョウトンボはこれまで天伯町では確  
認されていなかった種である。

## カメムシ目HEMIPTERA

## ヒシウナカ科 Cixiidae

## 1 ハスオビヒシウナカ

*Betacixius obliquus* Matsumura,1914

22-V-2005.2exs.,2-VI-2005.1ex.

## アオバハゴロモ科 Flatidae

## 1 アオバハゴロモ

*Geisha distinctissima* (Walker,1858)

27-VIII-2004.1ex.,25-VII-2005.2exs.,15-X-2005.1ex.

## セミ科 Cicadidae

1 クマゼミ *Cryptotympana facialis* (Walker,1858)

25-VIII-2005.鳴き声.

## 2 アブラゼミ

*Graptopsaltria nigrofusca* (Motschulsky,1866)

27-VIII-2004.鳴き声.

## 3 ニイニイゼミ

*Platypleura kaempferi* (Fabricius,1794)

25-VII-2005.抜け殻.

## 4 ツクツクボウシ

*Meimura opalifera* (Walker,1850)

27-VIII-2004.鳴き声.24-IX-2005.鳴き声.

## アワフキムシ科 Aphrophoridae

## 1 ハマベアワフキ

*Aphrophora maritime* Matsumura,1903

2-V-2005.1ex.24-IX-2005.2exs.15-X-2005.1ex.,

3-XI-2005.1ex.

## アメンボ科 Gerridae

## 1 ヒメアメンボ

*Gerris latiabdominis* Miyamoto,1958

18-IV-2004.多数.27-VIII-2004.多数.

## メダカナガカメムシ科 Malcidae

## 1 メダカナガカメムシ

*Chauliops fallax* Scott,1874

25-VII-2005.1ex. 24-IX-2005.3exs.

## ナガカメムシ科 Lygaeidae

## 1 ヒメナガカメムシ

*Nysius plebejus* Distant,1883

15-X-2005.1ex.

## 2 ホソメダカナガカメムシ

*Ninomimus flavipes* (Matsumura,1913)

22-V-2005.2exs.25-VII-2005.1ex.

24-IX-2005.1ex.,15-X-2005.1ex.

3 オオメカメムシ *Geocoris varius* (Uhler,1860)

2-VI-2005.1ex. 25-VII-2005.1ex.24-IX-2005.1ex.

## 4 クロナガカメムシ

*Drymus marginatus* Distant,1883

24-IX-2005.1ex.

## 5 コバネヒョウタンナガカメムシ

*Togo hemipterus* (Scott,1874) 15-X-2005.1ex.

## オオホシカメムシ科 Largidae

## 1 オオホシカメムシ

*Physopelta gutta* (Burmeister,1834)

8-V-2004.1ex.,5-VI-2004.1ex.

## ホソヘリカメムシ科 Alydidae

## 1 ホソヘリカメムシ

*Riptortus clavatus* (Thunberg,1783)

15-X-2005.1ex.

## ヘリカメムシ科 Coreidae

## 1 ホソハリカメムシ

*Cletus punctiger* (Dallas,1852)

22-V-2005.1ex. 24-IX-2005.1ex.,15-X-2005.1ex.

## マルカメムシ科 Plastaspidae

## 1 タデマルカメムシ

*Coptosoma parvipictum* Montandon,1893

5-VI-2004.4exs.8-V-2005.2exs.25-VII-2005.1ex.

## カメムシ科 Pentatomidae

## 1 トゲシラホシカメムシ

*Eysarcoris aeneus* Scopoli,1763 3-XI-2005.2exs.

## 2 ムラサキシラホシカメムシ

*Eysarcoris annamita* Breddin,1913

15-X-2005.1ex.

## 3 シラホシカメムシ



*Eysarcoris ventralis* (Westwood,1837)

15-X-2005.2exs.

\* 調査地の天伯町内では、ミズムシ *Hesperocorixa distanti distanti* シロヘリクチブトカメムシ *Andrallus spinidens* などの重要種が見いだされている。ミズムシは愛知県のレッドデータの情報不足に指定されている。シロヘリクチブトカメムシは近年よく見いだされる大型のカメムシ類であり太平洋岸一帯、関東地方神奈川県まで分布するようになった。温暖化傾向が伺える。

### コウチュウ目 COLEOPTERA

#### オサムシ科 Carabidae

1 ヨツモンカタキバゴミムシ

*Badister pictus* Bates,1873 15-X-2005.1ex.

#### クワガタムシ科 Lucanidae

1 コクワガタ

*Macrodercas rectus rectus* (Motschulsky,1857)

5-VI-2004.1♀.

#### コガネムシ科 Scarabaeidae

1 コイチャコガネ

*Adoretus tenuimaculatus* Waterhouse,1875

5-VI-2004.1ex.

2 ドウガネブイブイ

*Anomala cuprea* (Hope,1839) 2-VI-2005.1ex.

3 マメコガネ

*Popillia japonica* Newmann,1844

27-VIII-2004.1ex.25-VII-2005.2exs.

#### ナガハナノミ科 Ptilodactylidae

1 ヒゲナガハナノミ

*Paralichas pectinatus* (Kiesenwetter,1874)

22-V-2005.1♂1♀

#### タマムシ科 Buprestidae

1 マメチビタマムシ

*Trachys reitteri* Obenberger,1930

24-IX-2005.1ex.

#### ジョウカイボン科 Cantharidae

1 ジョウカイボン

*Athemus suturellus suturellus*

(Motschulsky,1860) 8-V-2004.1ex.

2 セボシジョウカイ

*Athemus vitellinus* (Kiesenwetter,1874)

8-V-2004.1ex.

#### カツオブシムシ科 Dermestidae

1 カマキリタマゴカツオブシムシ

*Thaumaglossa rufocapillata* Redtenbacher,1867

22-V-2005.1ex.

#### シバンムシ科 Anobiidae

1 ヒメトサカシバンムシ

*Anhedobia capucina* (Reitter,1877)

18-IV-2004.1ex.

#### ケシキスイ科 Nitidulidae

1 ヨツボシケシキスイ

*Librodor japonicus* (Motschulsky,1857)

5-VI-2004.3exs.

#### テントウムシ科 Coccinellidae

1 クロヘリヒメテントウ

*Scymnus hoffmanni* Weise,1879 15-X-2005.1ex.

2 コクロヒメテントウ

*Scymnus posticalis* Sicard,1912

18-IV-2004.1ex.8-V-2004.1ex.25-VII-2005.1ex.

3 ヒメアカホシテントウ

*Chilocorus kuwanae* Silvestri,1909

2-VI-2005.1ex.

4 ナナホシテントウ

*Coccinella septempunctata* Linnaeus,1758

2-VI-2005.1ex.

5 ヒメカメノコテントウ

*Propylea japonica* (Thunberg,1781)

8-V-2004.1ex.5-VI-2004.1ex.,

22-V-2005.1ex.,2-7-2005.2exs.

6 トホシテントウ

*Epilachna admirabilis* Crotch,1874

2-VI-2005.1ex.

#### ヒメマキムシ科 Lathridiidae

1 クロオビケシマキムシ

*Corticaria ornate* Reitter,1877 3-XI-2005.1ex.

#### ハムシダマシ科 Lagriidae

1 ヒゲブトゴミムシダマシ

*Luprops orientalis* (Motschulsky,1868)

2-VI-2005.1ex.

#### カミキリムシ科 Cerambycidae

1 ヤマトチビコバネカミキリ

- Leptepania japonica* (Hayashi,1948)  
22-V-2005.1ex.豊橋市では石巻山で記録されている。
- ハムシ科 Chrysomelidae
- 1 トゲアシクビボソハムシ  
*Lema coronata* Baly,1873 24-IX-2005.1ex.
- 2 アカクビボソハムシ  
*Lema diversa* Baly,1873 15-X-2005.1ex.
- 3 ヤマイモハムシ  
*Lema honorata* Baly,1873  
5-VI-2004.1ex., 2-VI-2005.1ex.
- 4 ドウガネツヤハムシ  
*Oomorphoides cupreatus* (Baly,1873)  
25-VII-2005.1ex.
- 5 マダラアラゲサルハムシ  
*Demotina fasciculate* Baly,1874 18-IV-2004.1ex.
- 6 クロウリハムシ  
*Aulacophora nigripennis* Motschulsky,1857  
8-V-2004.1ex., 27-VIII-2004.1ex.,  
25-VII-2005.1ex., 24-IX-2005.1ex.
- 7 フジハムシ  
*Gonioctena rubripennis* Baly,1862  
5-VI-2004.1ex.
- 8 ウリハムシ  
*Aulacophom femoralis* (Motschulsky,1857)  
24-IX-2005.1ex.
- 9 クワハムシ  
*Fleutiauxia armata* (Baly,1874) 18-IV-2004.1ex.
- 10 イチゴハムシ  
*Galerucella griseascens* (Joannis,1866)  
2-VI-2005.1ex., 24-IX-2005.3exs., 3-XI-2005.1ex.
- 11 フタスジヒメハムシ  
*Medythia nigrobilineata* (Motschulsky,1860)  
24-IX-2005.2exs.
- ゾウムシ科 Curculionidae
- 1 スグリゾウムシ  
*Pseudocneorhinus bifasciatus* Roelofs,1879  
25-VII-2005.1ex.
- 2 ハスジカツオゾウムシ  
*Lixus acutipennis* (Roelofs,1873) 2-VI-2005.1ex.
- 3 イネゾウムシ  
*Echinocnemus squameus* (Billberg,1820)  
2-VI-2005.1ex.
- 4 イチゴハナゾウムシ  
*Anthonomus bisognifer* Schenkling,1934  
18-IV-2004.1ex.
- \* 調査地の天伯町では、ミカワオサムシ *Carabus arrowianus arrowianus*、アオドウガネ *Anomala albopilosa albopilosa*、シロスジコガネ *Polyphylla albolineata*、ミツノエンマコガネ *Onthophagus tricornis*、ジウサンホシテントウ *Hippodamia tredecimpunctata timberlakei*などの環境重要種が見いだされている。
- チョウ目 LEPIDOPTERA
- セセリチョウ科 Hesperidae
- 1 イチモンジセセリ  
*Parnara guttata guttata* (Bremer et Grey,1852)  
24-IX-2005.1ex. 目撃.
- アゲハチョウ科 Papilionidae
- 1 ナミアゲハ  
*Papilio xuthus* Linnaeus,1767  
27-VIII-2004.1ex. 目撃., 25-VII-2005.1ex. 目撃.
- シロチョウ科 Pieridae
- 1 キチョウ  
*Eurema hecabe* (Linnaeus,1758)  
24-IX-2005.1ex. 目撃.
- 2 モンシロチョウ  
*Pieris rapae crucivora* Boisduval,1836  
5-VI-2004.1ex. 目撃., 2-VI-2005.1ex. 目撃.
- シジミチョウ科 Lycaenidae
- 1 ベニシジミ  
*Lycaena phlaeas daimio* (Matsumura,1919)  
5-VI-2004.1ex. 目撃., 2-VI-2005.1ex. 目撃.
- 2 ヤマトシジミ  
*Zizeeria maha argia* (Menetries,1857)  
18-IV-2004.1ex. 目撃., 27-VIII-2004.1ex. 目撃.,  
2-VI-2005.1ex. 目撃., 25-VII-2005.1ex. 目撃.
- ジャノメチョウ科 Satyridae
- 1 ヒメジャノメ  
*Mycalesis gotama fulginia* Fruhstorfer,1911  
5-VI-2004.1ex. 目撃., 2-VI-2005.1ex. 目撃.
- 2 サトキマダラヒカゲ

*Neope goschkevitschii* (Menetries,1857)

5-VI-2004.lex.目撃.27-VIII-2004.lex.目撃.

\*調査地近くの同町の我が家では、ナガサキアゲハ *Papilio memnon thunbergii*、ツマグロヒヨウモン *Argyreus hyperbius hyperbius*、クロコノマチヨウ *Melanitis phedima oitensis*、ツマキチヨウ *Anthocharis scolymus*、ゴマダラチヨウ *Hestina japonica*、ギンイチモンジセセリ *Leptalina unicolor*などがこれまでに見いだされている。前出の3種は地球温暖化指標昆虫として記録すべき種である。

\*蛾類については、ホタルガ・アケビコノハなど見いだしているが本報告では扱っていない。

以上、天伯湿原及びその周辺(湿原に面する森)に生息している昆虫は、トンボ目2科7種、カメムシ目12科20種、コウチュウ目15科36種、チョウ目5科8種、総計4目34科71種を記録する。確認された種は一部であり、実際には何倍もの種が生息しているものと思われる。今回の調査では、レッド

データNTに指定されているハッチョウトンボが確認されている。他は平地に生息する暖地性の普通に見いだされる種ばかりである。これが同地のある程度まとまった初めての報告となる。

#### 参考文献

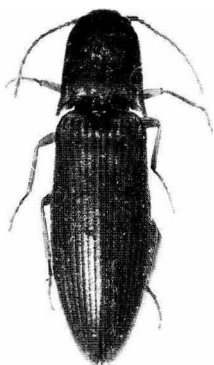
- 1) 恒川敏雄(1973) 生物.豊橋市立天伯小学校.
- 2) 浅岡孝知ほか(1980) 渥美半島の昆虫. 東三河昆虫研究グループ.豊橋市.
- 3) 平嶋義宏監修(1989) 日本産昆虫総目録 九州大学農学部昆虫学研究室・日本野生動物センター
- 4) 浅岡孝知ほか(1999) 豊橋市自然環境保全基礎調査報告書(資料編).豊橋市
- 5) 浅岡孝知ほか(2000) 豊橋の自然発見.豊橋市
- 6) 佐藤正孝ほか(2002) レッドデータブックあいち.動物編.愛知県.
- 7) 林昌宏ほか(2004) 郷土誌天伯.豊橋市立天伯小学校
- 8) 林正美・尾崎光彦(2004) 神奈川昆虫誌.神奈川昆虫談話会.

## ウスカバイロコメツキ豊田市に分布

大平仁夫

ウスカバイロコメツキ *Chatanayus ishiharai* (Nakane et Kishii,1954) は体長9mm内外の黄橙色をした暖地系の種である。愛知県での分布の概要は大平(1990)がまとめており、岡崎市と田原市和地から知られていたが、その後豊川市から大平・浅岡(1998,2000)が記録している。成虫は灯火に飛来するので、そこで偶然に見出されることがあっても、一般の採集では簡単に得られる種ではない。

このたび、三河昆虫研究会の岩月学氏が豊田市矢並町で採集され



た1個体を調べることができた。豊田市からはこれが最初の記録である。この標本は筆者が保管している。ここに貴重な資料を調べる機会を与えられた岩月氏に心から感謝の意を表す。

標本：1♀.豊田市矢並町.14-VII-1998.岩月学採集。(図示した個体)。

#### 引用文献

- 大平仁夫(1990) 三河地方のコメツキムシ雑記(3) 風来寺山自然科学博物館報.(21) : 9-13
- 大平仁夫・浅岡孝知(1998) 新編豊川市史.10巻.自然資料(コメツキムシ科) : 239-243(豊川市)

# ユリクビナガハムシの生息を確認

岩 月 学

はじめに ユリクビナガハムシ *Lilioceris merdigera* Linnaeus は、「愛知県の昆虫 (上)」(1990) に記載されていない。また、その後発行された三河地方の市町の調査報告にも記録がないようであり、筆者もまた豊田市での調査で生息を確認してこなかった。

ところが、本年 (2005)、豊田市矢並西湿地で生息を確認することができた。調査や湿地保護活動で何年も見てきた場所だけに驚きであった。以後、若干の所を調査し、生息確認も出来た。山崎隆弘氏、蟹江昇両氏のご教示でも、未だ県内での記録は無いようなので、調査、観察の結果を報告しておきたい。

本稿をまとめるに当たり、山崎、蟹江両氏及び豊田市の生息場所の教示や調査協力を戴いた西三河野鳥の会の大原満枝氏、自然観察指導員の堀田信二氏に謝意を表したい。

## 1 ユリクビナガハムシ

ハムシ科クビボソハムシ亜科に属し、8~8.5mm程のハムシである。赤褐色で光沢が強い。腿節末端、脛節基部と末端部、ふ節が黒色であるのが特徴である。頭は、逆V形の溝の間に正中溝があり、前胸は両側中央が強くくびれ、中央前方に1縦溝を有し1条の点刻列がある。上翅は列状点刻があり、間室は平滑である (写真1)

幼虫は、糞を背中から体側にかけて大量に乗せていて、クビボソハムシ

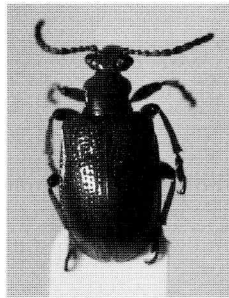


写真1 ユリクビナガハムシ 05/6/7 矢並西湿地

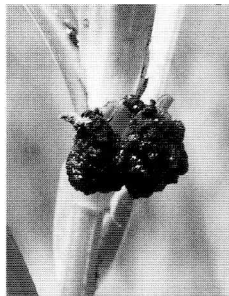


写真2 ユリクビナガハムシ幼虫 05/6/12 矢並西湿地

類が糞を背中に乗せているのとは異なる。(写真2)

## 2 調査結果 (いずれも平成17年 (2005))

	場 所	月 日	食 草・確 認 数
豊 田 市	矢並西湿地	6/7	コオニユリ 成虫5~、
	矢並西湿地 (東外)	6/18	コオニユリ 21本中7本成虫4、幼虫18 (若齢3)
	矢並西湿地 (湿地内)	6/25	コオニユリ 13本中3本成虫2、幼虫2
	矢並西湿地 (東外)	〃	コオニユリ 成虫2、幼虫2 (若齢)
岡 崎 市	矢並西湿地 (東外)	7/2	コオニユリ 成虫2
	矢並西湿地 (東外)	8/1	コオニユリ 幼虫5 (老齢・1本に)
	渡合町5丁目 (岩月、大原)	6/22	タカサゴユリ 6本中4本成虫3、幼虫5 (老齢)
	渡合町5丁目	8/1	タカサゴユリ 4本成虫4、幼虫5 (老齢)
岡 崎 市	八ツ木町南郷	8/6	①タカサゴユリ 約40本成虫1
	同 (2軒隣)		②タカサゴユリ 12本中4幼虫6 (若、老齢)
	滝町根張沢	8/17	①タカサゴユリ 約48本中2本成虫2
	同 (約300M程離れる) 同		②タカサゴユリ 15本中2成虫2

## 3 豊田市での既観察

大原氏によると、今回の渡合町5丁目の確認場所で「10年前 (1995) に、この虫がタカサゴユリにいるのを見ている、子供の入学の年なので記憶している」とのことであり、今回さっと教えてもらえたのも、以後もよく見ておられたからであろう。筆者も時々歩いたのに、気付かずにいた。

## 4 食草について

今回、豊田市では野生のコオニユリとタカサゴユリ、岡崎市ではタカサゴユリが食草であることが確認された。図鑑ではユリ類と記述されているので食草について触れておきたい。(写真3)

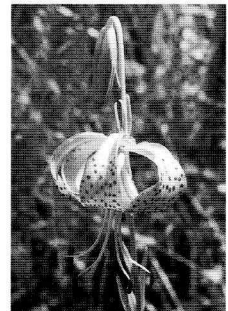


写真3 コオニユリ

①トヨタフォレストヒルズにコオニユリが自生しているので、大原氏の案内で本種が生息しないか確認した6月22日に、ササユリのたくさん生えている場所数ヶ所を調べたが食痕らしいものさえ見られなかった。

②渡合町5丁目の確認場所から8Mほどの所に、オニユリが10本ほど植栽されていたが、やはり本種が付いているようには見られなかった。

なお、インターネットでは、舞鶴市、倉敷市では栽培タカサゴユリが食い荒らされると記され、ほかにヤマユリが挙げてある。

コオニユリ、タカサゴユリとオニユリ、ササユリを比較すると、葉の厚みが前者では薄く、柔らかく、後者は厚いという大きな違いを感じる。また、タカサゴユリの繁殖しやすいという点も関係するのかも知れない。なお、コオニユリもタカサゴユリも蕾の部分まで幼虫に食べられたと思われ株がある。(写真3)

## 5 生息場所



写真4 渡合町生息場所 写真5 ハツ木町生息場所

矢並西湿地内…ノリウツギやヌマガヤの中に、東外は元農道にコオニユリがある。日中は日当たりはよいが山の関係で朝夕は日陰になる。

渡合町5丁目…東は民家、西は石組土手の高みの畑の中の細く短い通路である。朝夕の日陰が長い。このすぐ上は部落中央の舗装道路で公民館もあり、車もよく通る。(写真4)

ハツ木町…南東が低い山で道路を挟んだ旧村落

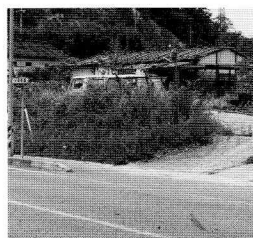


写真6 滝町①生息場所 写真7 滝町②生息場所

である。①は南面の生け垣下、②は民家の西側で高い屋敷生け垣との間でである(写真5)

滝町の①…県道添いの民家が点在する高み、②…山裾の、県道との間の南面の屋敷地である。(写真6、7)

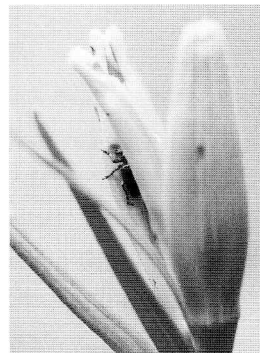


写真8 タカサゴユリ

このように、本種は低山地の旧村落的場所で生息して来たのであろうか。幼虫は葉の付けねにることが多いうえに、物影や動きを感じるとすぐに落下・擬死する習性が人に見掛けられるのを防いだのであろうか。(写真8)

6 岡崎市、豊田市での調査…いずれも成虫、幼虫を見ず、食痕らしきものも無い。

岡崎市(岩月)

①8/6~7…矢作町五区5か所 約55本

矢作川右岸の平地 タカサゴユリ

②8/15…矢作町四区寺院境内 約60本

矢作川右岸の平地 タカサゴユリ

③8/7…牧御堂町郷中3か所 約30本

矢作川左岸の平地

④8/8…桑谷町山荘下1か所 22本

市東南部の山間

⑤8/8…山綱町(畑の縁)2か所 約60本

桑谷町の北で、国道1号線に近い。

⑥8/17…稲熊町2か所 約75本

高台斜面のやや古い住宅地の庭と空き地

⑤以外は、民家の屋敷地内や生け垣沿いにタカサゴユリが生育していた所である。

豊田市(堀田、岩月)

①6/25…矢並東湿地 コオニユリ 54本(岩月)

②8/25…水源町全域 里山の住宅地(堀田)

矢作川右岸 タカサゴユリ

③8/26…前山町・今町全域 住宅地(堀田)

矢作川右岸 タカサゴユリ

④8/27…平和町全域 里山の住宅地(堀田)

矢作川右岸 タカサゴユリ

結び 生息場所での観察から、タカサゴユリの花期に、花の無い株があれば、幼虫に食べられていると考えてもよいように思われるので、各地で生息が確認されることを期待したい。

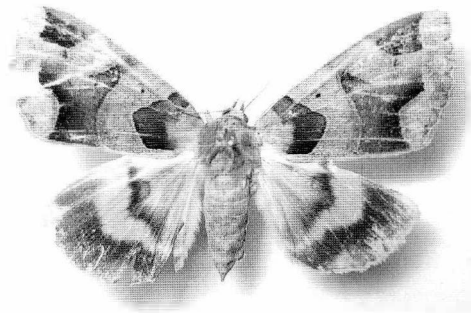
主な参考文献

- 愛知県の昆虫(上)別冊 平成2年 愛知県昆虫分布研究会
- 原色昆虫大図鑑(第2巻)昭和56年 北隆館
- 原色日本甲虫図鑑(Ⅳ)平成元年 保育社

## 安城市でカクモンキシタバを採集

小 鹿 亨

筆者は安城市でカクモンキシタバ *Chrysorithrum amatum* (Bremer & Grey,1853) を採集しているので、本種の分布記録として報告する。



1♀,Ⅷ-2005,安城市里町雁戸塚(筆者標本保管)

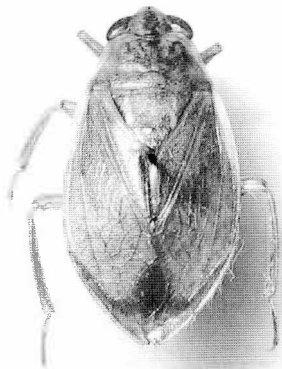
かなり破損した個体であった。あまり活発には動いていなかった。なお、最近発行された安城市史自然編の動物目録には本種の名前はない。筆者らは安城市史自然編の編纂に関わり、ライト・トラップ等による調査活動を数年にわたって行ったが、その中では本種は確認できなかった。

引用文献

- 安城市史自然編目録 動物(2005)
- 安城市史編纂委員会自然部会,安城市.

## コオイムシを刈谷市で記録

小 鹿 亨



1♀,11-Ⅸ-2005,刈谷市西境草野池(筆者標本保管)

筆者はコオイムシ *Appasus japonicus* Vuillefroy,1864 を刈谷市北部で採集しているので、本種の分布記録として報告する。

筆者が岸から投げたプランクトンネットの中に偶然入ってきたもので、現地は比較的大きなため池で、水中にはガガブタやタヌキモの仲間が繁茂していた。

本種の分布などについて、ご教示いただいた都築裕一氏に感謝いたします。

## 三河地方から採集されるコメツキムシについて(24)

大平 仁 夫

筆者は現在まで、三河地方のコメツキムシ類の分布について調査を進めてきたが、ここでは2005年に見出した主な種について記録する。採集地へは虫友の山崎隆弘氏や浅岡孝知氏の車に便乗させていただいて筆者自身が採集した種である。山崎、浅岡両氏の採集品については別に報告の予定である。

本文を草するにあたり、採集に種々支援をいただいた山崎・浅岡の両氏に心から感謝の意を表する。なお、この地方でも市町村の合併や進行中のところがあり、合併が終了したところも地名の表示は混乱をさけるため、すべて旧名で記録した。

### I. 額田郡額田町雨山(23-IV-2005)

ここは雨山ダムが建設され、周辺の景観は往時とは一変している。ダム周辺は桜などが植えられて公園化されており、休日には観光客や子供連れでにぎわっている。

1. *Selatosomus* (*Eanooides*) *puerilis* (Candèze, 1873) シリプトヒラタコメツキ (1♂)

2. *Ampedus* (*Ampedus*) *hypogastricus hypogastricus* (Candèze, 1878) (1♀)

3. *Ectinus sericeus sericeus* (Candèze, 1878) (3♂♂4♀♀)

ダム池周辺の整地されたところに植えられた桜樹で得られた。森林が伐採されて開けた空間になると、何が増えるかを知る手がかりになると思われる。

### II. 三河本宮山の山頂部(28-V-2005)

山頂部はアセビの古木が繁茂した群落を作っていたが、訪れたときは伐採されていて、ツツジのみが残されており、ツツジ園にするつもりらしい。この山頂部は吹き上げの種がときに見られるところで、昔はギフチョウが舞っていたが、今はその面影はない。

1. *Actenicerus aerosus* (Lewis, 1879) コガタシモフリコメツキ (1♀)

2. *Cidnopus marginicollis* (Lewis, 1894) ウスチャイロコメツキ (1♀)

3. *Ampedus* (*Ampedus*) *oiwakensis* Ôhira, 1974 (1♂) オイワケクロコメツキ (?) (図1, D)

体長は7mmの小形個体である。小形以外の特徴は上記種によく一致した。ここではとりあえず上記種として記録するにとどめる。

3. *Melanotus* (*Melanotus*) *correctus correctus* Candèze, 1865 ヒラタクロクシコメツキ (4♂♂3♀♀)

### III. 南設楽郡作手村・長ノ山湿地周辺(28-V-2005)

ここは県指定の天然記念物の「長ノ山湿地」があるが、湿地周辺では湿地固有種が見られるし、周辺の自然も比較的よく保たれている。

1. *Pectocera fortunei fortunei* Candèze, 1873 ヒゲコメツキ (1♂)

2. *Actenicerus aerosus* (Lewis, 1879) コガタシモフリコメツキ (5♂♂4♀♀)

各地に広く分布する種であるが、幼虫は湿地嗜好性である。作手村では各地で得られていて、ここのようにいつも見られるところは三河地方では珍しいと思われる。

3. *Actenicerus orientalis* (Candèze, 1889) オオシモフリコメツキ (1♂1♀)

本種も幼虫が湿地嗜好性であり、ここでは比較的よく見出される。これは作手村のあちこちに湿地が散在することに帰因していると思われる。

4. *Melanotus* (*Spheniscosomus*) *cete cete* Candèze, 1860 アカシオオクシコメツキ (1♂1♀)

### IV. 南設楽郡作手村川尻城跡(28-V-2005)

ここは城跡公園になっていて、その麓には湿地があり、湿地植物が保全されている。ここでも湿地嗜好性のシモフリコメツキが多く見出された。



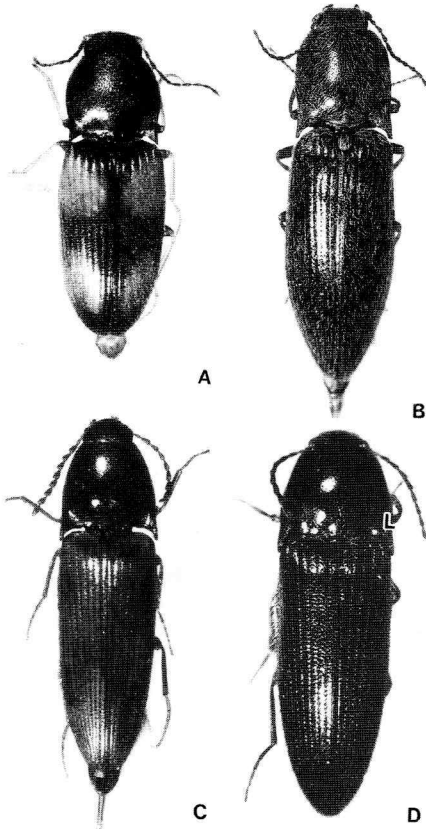


図1. A, ジュウジミズギワコメツキ, ♀, 体長4mm  
 B, コガタシモフリコメツキ, ♀, 体長10mm  
 C, アカアシアカコメツキ, 体長11mm  
 D, オイワケクロコメツキ (?), ♂, 体長7mm.

1. *Actenicerus aerosus* (Lewis, 1879) コガタシモフリコメツキ (2♂♂1♀) (図1, B)

2. *Actenicerus orientalis* (Candèze, 1889) オオシモフリコメツキ (1♂7♀♀)

本種は長野県などの山岳地の湿地にも分布しているが、低地産との相違はまだ充分調べられていない。しかし、ここ産の上翅の斑紋の現れかたは、長野県産とは若干の相違が見られる。

3. *Melanotus (Melanotus) correctus correctus* Candèze, 1865 ヒラタクロクシコメツキ (5♂♂)

**V. 豊橋市賀茂町・豊川河川敷(14-VI-2005)**

1. *Corymbitodes gratus* (Lewis, 1894) ドウガネヒラタコメツキ (1♂1♀)

山林性の種である。上流から流れ着いて生息していたのかも知れない。

2. *Pristilophus vagepictus* (Lewis, 1894) ウストラフコメツキ (1♂)

豊川の河川敷の灌木のあるところによく見出される。幼虫は周辺の砂壤土中に生息している。

3. *Fleutiauxellus cruciatus* (Candèze, 1873) ジュウジミズギワコメツキ (4♂♂2♀♀) (図1, A)

砂礫の多い清潔な河川敷に分布する種で、愛知県で分布するところは、この豊川の河川敷だけになっている。

**VI. 北設楽郡段戸裏谷(14-VI-2005)**

裏谷のブナ原生林は、今は観光林になっていて、昔の鬱蒼とした樹林の面影はない。そこで見出されるコメツキムシは種類も個体数も激減している。

1. *Ampedus (Ampedus) oiwakensis* Ôhira, 1974 オイワケクロコメツキ (1♀) (図1, D)

2. *Ampedus (Ampedus) fagi* (Lewis, 1894) アカシアカコメツキ (1♀) (図1, C)

本種は面ノ木峠からは記録されているが、裏田からはこれが最初の記録である。

3. *Ectinus sericeus sericeus* (Candèze, 1878) カバイロコメツキ (1♂2♀)

4. *Ectinus (Ectinoides) insignitus insignitus* (Lewis, 1894) ヨツキボシコメツキ (1♂)

5. *Dalopius tamui* Kishii, 1957 ホソナカグロヒメコメツキ (4♂♂3♀♀)

**VII. 宝飯郡音羽町・宮路山(19-VI-2005)**

宮路山のコメツキムシ類は音羽町史・自然編でまとめられている。珍品こそ少ないが、里山の普通種はまだ多く見出されるのでハイキングを兼ねて楽しむことができる。

1. *Hemicrepidius (Pseudathous) secessus secessus* (Candèze, 1873) クロツヤハダコメツキ (2♂♂5♀♀)

2. *Neopristilophus serrifer serrifer* (Candèze, 1873) アカヒゲヒラタコメツキ (2♂♂)

3. *Mulsanteus junior junior* (Candèze, 1873) ヒゲナガコメツキ (3♂♂1♀)

4. *Melanotus (Melanotus) lewisi lewisi* Schenkling, 1927 ルイスクシコメツキ (1♂)

5. *Displatynychus adjutor adjutor* (Candèze, 1873) アカアシハナコメツキ (1♂2♀♀)

### Ⅶ. 宝飯郡御津町御幸浜(24-VI-2005)

海岸を埋立てて作られた公園であるが、草地もあり樹木も茂っており、ときに思わぬ種が見出される。ミカワサビキコリもそれである。

1. *Agrypnus (Agrypnus) mikawaensis* Ôhira, 1986 ミカワサビキコリ (1♂)
2. *Melanotus (Melanotus) legatus legatus* Candèze, 1860 クシコメツキ (1♂1♀)

3. *Paracardiophorus nakanei hindoensis* Ôhira, 1997 ホンドコハナコメツキ (1♀)

### Ⅸ. 豊橋市新西浜町(24-VI-2005)

1. *Agriotes (Agriotes) ogurae ogurae* Lewis, 1894 オグラカバイロコメツキ (8exs.)  
ここでは山崎氏が多くの個体を採集されている。

## ツヤケシフトヒラタコメツキ雄の形態

大平 仁 夫

ツヤケシフトヒラタコメツキ *Acteniceromorphus subopacus* Kishii, 1982 は、最初に八ヶ岳山系的美濃戸や洪温泉付近で見いだされた雌個体に基づいて新種として記載された体長10mm内外で黒色、やや扁平状の種である。原記載以降、本種は山梨県、長野県、岐阜県などから記録されているが、いずれも山岳地で見いだされている。また、本種の雄個体は大平・桐山 (1997) が岐阜県濁川温泉産を記録し、若干の形態を報告しているし、吉沢 (1998) は長野県飯田市播古木山産の雄個体を記録しているが、各部の形態はまだ図示されていないので、ここに紹介する。

調査した個体の体長は10mm。体はやや扁平で両側は平行状 (図A)。黒色で光沢はやや鈍く、体毛は灰色。触角と肢は黒色～黒褐色。触角は短く、末端は前胸背板の後角に達するかやや長い程度で、第2節は短小、第3節から鋸歯状、第4節は第3節よりやや長い程度 (図B)。頭部の前頭部は扁平状で、前頭横降線の前縁中央分は抑圧されて不明瞭である (図C↑)。前胸背板は弱く膨隆し、正中部には平滑線や縦凹溝は生じない (図D)。また、前胸背板の後角背面には浅い1隆起線を生じる (図E↑)。雄交尾器の末端部の外形 (背面) は図示したようである (図F)。

末尾に、この貴重な資料の提供をしていただいた岐阜市の豊島健太郎氏に心から感謝の意を表す。

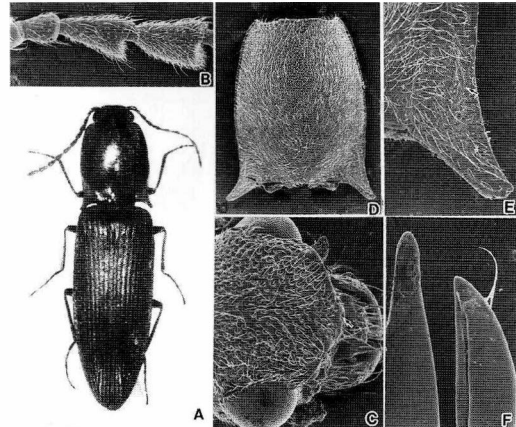


図 A-E. ツヤケシフトヒラタコメツキの雄。

- 成虫, 体長10mm
- 左触角の第2-4節
- 頭部の背
- 前胸背板の背面
- 前胸背板の右後角部
- 交尾器末端部, 背面。

調査標本: 2♂♂, 岐阜県高山市朝日・御岳山麓, 26-VI-2005, 豊島健太郎採集。燈火に飛来。(こううちの1個体を分解して図示)。

### 引用文献

- 大平仁夫・桐山 功 (1997) ツヤケシフトヒラタコメツキ雄の記録。啓蟄, 4 (36) : 11-12.
- 吉沢尚宏 (1998) 中央アルプス南部におけるツヤケシフトヒラタコメツキの記録。月刊むし, (334) : 35.

# 愛知県設楽山地におけるコリクワガタ

城 殿 浩

愛知県におけるコリクワガタの分布は長野県境の地域と、ブナの原生林で知られる稲武町面ノ木峠と設楽町戸裏谷で多くの記録があるものの、他の地域では調査不足のためか、殆ど記録がない。今回、筆者は今まで記録されてきたこれら設楽山地の南部にあたる山域において、新たにコリクワガタの生息を確認できたのでここに報告をする。

筆者が調査した山域は主に豊川上流の河川によって浸食された地域であり、標高1000m級の山が点在している。また、北部になるが津具村においても新たに分布を確認できたのであわせてここに報告する。これら地域は約2000万年前の火山活動で形成された設楽火山帯に当たり、岩盤が固いため浸食がされず、急峻な地形となっている。そのためか、山頂部や尾根、沢の源頭などに自然林(二次林)が植林を逃れて各所に散在している。この自然林において生息を確認できた。また、コリクワガタの分布の指標にもなるブナも古町高山、大鈴山、平山明神山、三瀬明神山、神野山の山頂部付近、鹿島山から大鈴山を経て平山明神山に至る尾根で数本ずつであるが確認できた。

調査の結果、東栄町において初めてコリクワガタの分布が確認できた。また、愛知県における分布の南限も三瀬明神山まで下がった。しかし、鞍掛山の南側の尾根及び、三瀬明神山の南西斜面の鳳来町においては調査したが確認できなかった。同じく、鳳来町においては宇連山(929m)、設楽町では鹿島山(914m)と寒狭山(945m)、東栄町では神野山(938m)、津具村では白鳥山(968m)も調査したが、どの山にも小規模ながら自然林が残っていたもののコリクワガタの生息を確認できなかった。なお、学名はコリクワガタ *Platycerus acuticollis* である。



コリクワガタの分布概念図  
(△…分布を確認 ★…確認できず)

- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 1 設楽町岩古谷山 (799m)     | 30.III.2003 (幼虫)  |
|                      | 19.X.2003 (3♂3♀)  |
|                      | 9.XI.2003 (2♂1♀)  |
| 2 設楽町～東栄町大鈴山 (1011m) | 6.IV.2003 (2♂1♀)  |
|                      | 14.XI.2003 (3♂3♀) |
| 3 設楽町鞍掛山 (883m)      | 19.IV.2003 (幼虫)   |
|                      | 26.X.2003 (1♀)    |
| 4 東栄町平山明神山 (970m)    | 1.IV.2004 (幼虫)    |
|                      | 24.X.2004 (2♂1♀)  |
| 5 東栄町三瀬明神山 (1015m)   | 11.XI.2004 (幼虫)   |
|                      | 21.XI.2004 (2♂3♀) |
| 6 津具村古町高山 (1055m)    | 28.XI.2004 (5♂3♀) |

以上、6ヶ所で新産地が確認できた。どの産地の個体も北部地域に比べてやや小型であるが、明確な差異は感じられなかった。色彩や上翅の点刻も同様に違いは感じられなかった。ただ、採集できた個体数が少ないため、断言するにはもっと個体数が必要だと思われる。

調査した設楽町の鹿島山から岩古谷山をへて鞍掛山、宇連山さらに鳳来寺山(684m)まで東海自然歩道が整備されており、各明神山も登山道が整備されていて登山道から離れない限りは安全に

調査できる。しかし、植林が盛んにされていることでもわかるようにいろいろな脇道があり、ガレ場急傾斜地も多いので調査される際は、十分に注意されたい。

東栄町で新たに産地が確認できたので、続いて南部の鳳来町にチャレンジしたが産卵マークすら見つけることができなかった。宇連山山頂部しか

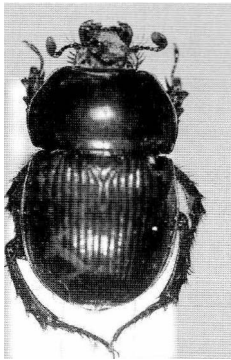
調査していないので、鞍掛山や鳳来寺山へのピークにまだ充分生息の可能性があると思われる。今後はこれら設楽山地最南部の分布調査にチャレンジしていきたいと考えている。

#### 参考文献

愛知の昆虫 (上) 愛知県 三河の昆虫 (46) 他

## オオセンチコガネを額田町で採集

鈴木 栄



標本：2♂、1♀；額田郡額田町雨山,5-V-2005  
鈴木栄二採集

オオセンチコガネ *Geotrups auratus* を本宮山麓の額田町雨山で、採集したので報告する。山道脇の獣糞に集まっていた。

#### 引用文献

大平仁夫 (2004) オオセンチコガネを岡崎市で採集

三河の昆虫, (51) : 573

川井信矢 他 (2005) 日本産コガネムシ上科図説1巻

食糞郡 昆虫文献 六本脚

## 岡崎市本宿町から蛾屋の報告

松井 直人

前号 (No.52: 2005-2) の報告で校正ミスがありました。ヤヒコカラスヨトウは誤りですので、削除をお願いします。また、新たに次ぎの種を追加報告します。採集者はいずれも松井本人です。

チャオビフユエダシャク (1♂,29-III-2004)  
(1♂,9-III-2005)

コナミフユエダシャク (1♂,30-I-2004)

キアシドクガ (1♀,14-VI-2005)

サカグチキドクガ (1♀,27-VI-2005)

ヤマトホソヤガ (1♂,3-XI-1999) 稀種です。

10年ぶりの再会でしたので、ここに特に記録しました。

# 八重山諸島採集紀行備忘録

寺 下 正 清 ・ 権 田 武 ・ 水 野 宏

## 1.はじめに

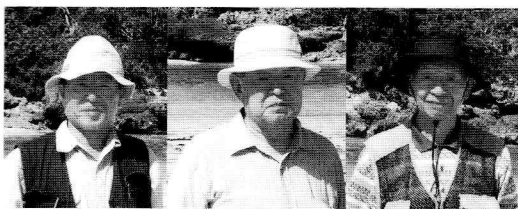
平成17年10月17日から24日にかけて、八重山諸島を訪島する機会を得た。これは昨年度からの念願であり、参加者は胸躍る気持ちで機上の人となった。

八重山諸島を採集の目的地にした場合に、心配なのはハブよりも台風である。おりしも、出発1週間ほど前に台風20号が発生し、南大東島周辺に居座っていた。秋の台風は長く、その動向が気がかりで幾度となくインターネットに向かい情報を探った。幸運にも台風は石垣島・沖縄本島をそれて北東へ進路を向けることになった。

機内のアナウンスは「石垣地方の天候は晴れ、気温27℃」を告げていた。期待が一気に高まり、ネットを振り回す姿を思い描いた。その採集紀行の一端を報告する。

## 2.採集地

- 1) 10月17日 西表島南風見の海岸入り口・仲間川林道車止周辺
- 2) 10月18日 西表島白浜旧道・祖納・星立(千立)・浦内川河口・星砂の浜
- 3) 10月19日 竹富島東海岸・与那国島
- 4) 10月20日 与那国島東崎・宇良部岳・比川・森林公園
- 5) 10月21日 与那国島宇良部岳(途中、寺下・権田は帰路へ)
- 6) 10月22日 水野、与那国島から波照間島へ
- 7) 10月23日 波照間島集落南地区・西浜入り口・ぶりぶち公園
- 8) 10月24日 波照間島から帰路へ



寺下正清

権田 武

水野 宏

## 3.採集地の概要

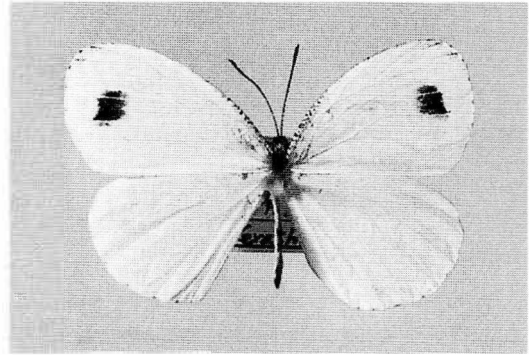
### 1) 西表島

#### ①西表島での1日目(10月17日)

中部国際空港発の直行便で石垣島へ入った場合に、効率的な採集を考えて初発の採集地をどこに置くかが問題となる。石垣島・竹富島は三人とも経験済みということで一気に西表島に向かうことにした。第1日目は時間的ゆとりも少なく、目的地を民宿近辺の南風見と仲間川林道に置いた。この2か所は採集地としてよく知られたところであり、ここの成否により今回の採集成果が左右されると判断したからである。南風見の海岸入り口の茂みにはスジグロカバマダラやリュウキュウアサギは勿論のこと、オオゴマダラ等が飛び交っているところである。しかし、確認できた個体数は少なく採集もままならない状況

であった。一瞬不安に感じたが各自数頭を採集したところで仲間川林道に向かうことにした。成果はクロテンシロチョウ (写真2) とオオゴマダラであった。

仲間川林道での採集は森林署の許可が必要な場所である。それだけにコノハ・カラス・クロアゲハ・ヤエヤマイチモンジ・コウトウシロシタセセリ・ミカドアゲハ・イシガケチョウ等々が期待できる所である。しかし、日も傾き蝶類を採集できる状況ではなかった。レンタカーで車止めまで入った所で民宿池田屋に帰ることにした。



(写真2) クロテンシロチョウ

この仲間川林道での採集は森林署の許可が必要であり、採集結果を報告する義務があることを付記しておく。

## ②西表島での2日間 (10月18日)

同行の三人はそれぞれ個性を発揮して採集したり、採集品を整理したりして過ごした。お互いのペースや日常習慣を尊重することで和が保たれるのである。同行の三人は年も重ねており、ある程度自分の力量を把握しているので、採集自慢がない。世間話で終始する。こんな採集旅行が後々まで続いた。それがいいのである。

2日目は民宿地の大原から白浜まで車を飛ばし、そこから採集しながら大原に戻るコースをとった。白浜の旧道は採集の好ポイントとして知られているところである。権田・水野は白浜集落から旧道へ、寺下は反対側の旧道入り口に車を回して採集することにした。旧道は車止めがしてあり、車での通り抜けは出来ないようになっている。採集には格好の場所である。道路端にはセンダングサが咲き、スジグロカバマダラやリュウキュウアサギが戯れている。頭上は亜熱帯特有の樹木が覆い、所々で薄日が差し込んで道路を明るくしている。そんな木々の間をカラスアゲハ・アオスジアゲハが舞い、シジミチョウ類もチラチラと飛び交っている。じっくり見ればジャノメ・ヒカゲ・セセリチョウ等も結構居る。このポイントは樹高もあり、引き抜き式の長竿が有利である。1時間ほどで次の採集地へ向かうことにした。

祖納・星立は福木に囲まれた民家が点在して美しい集落である。ブツウゲの花にツマベニが来ているのではないかと探したが、花自体も少なく確認することができなかった。オオゴマもないために一般種を採集して祖納・星立を後にした。

浦内川河口で昼食を摂るとともに、採集に従事した。この一帯は観光地でもあり各種の花が色とりどりに咲いていた。その花にアゲハチョウ類・マダラチョウ類が飛翔してきて数を増やすことができた。当初は手当たり次第に採集していたが、徐々に品定めをしながらの採集になってきた。

オオゴマを求めて砂星の浜 (住吉地内) へ行ったが、皆無であった。どうも台風が影響しているようである。大原の港までの帰路、美原 (由布島) ・古見の野生動物保護センター、サキシマスオウノキ群落を寸暇を惜しんで見学して石垣市に向かった。

## 2) 竹富島

### ③竹富島 (10月19日)

年齢60歳、70歳ともなると夜の活動は静かなものである。宿泊した石垣グランドホテルから歩いて5・6分の美崎町は飲食業で成り立っている繁華街である。そういう所はとっくに卒業済みとばかりに、ホテル内で採集品の整理や雑談で終始してしまった。

ホテルから離島棧橋(写真3)までは徒歩3分、目と鼻の先にある。地の利を得た場所であり重宝しているホテルである。しかも、竹富島へは船で10分、欠航も少ないし蝶類の個体数も多いということで、いざという時には竹富島に向かうのである。竹富島で気をつけたいことは、集落周辺でネットを振ることはタブーということである。その点、スプリング式のネットは都合がよい。

採集場所は、港を出てから直ぐに左手に入る道、そして10m程進むと右手に入る道が目につく。左手に進むと牧場に出会う。牧場方面も採集は可能であるが、南からの風も吹き込み個体数は期待できない。採集に最もふさわしいのは右手の道に入り、東海岸を進むコースである。このコースの両側の下草としてセンダングサが密生しており、その上をブッソウゲ・デイゴやツルアダンが覆い防風林の役目をしている。そこに蝶類が集まってくるのである。スジグロカバマダラ・リュウキュウアサギはもとよりシロオビアゲハ・リュウキュウムラサキ・タテハモドキ・ヤエヤマムラサキ等が飛び交っている。時にはカバタテハも見られる。根気よく採集すれば殆どの種類の蝶類が採集できると思われる。今回はツマベニは個体数も少なく採集することはできなかった。これも台風の影響と思われる。

台風の影響で個体数が少ないとは言うものの、私たちの地域とは雲泥の差である。私たちは採集結果に満足しながら与那国島に向かうことにした。



(写真3) 離島への玄関は「石垣港」

### 3) 与那国島

#### ④与那国島の1日目(10月19日)

石垣・与那国島の航空便は1日2便であり、午前の便はジェットで乗客150名程、午後の便はプロペラ機で乗客40名程である。天候がよければ石垣空港を飛び立つと竹富島・新城島・小浜島・西表島が箱庭の中に浮かんでいるようによく見えるのであるが、残念ながら今回は雲の上で下界は見えなかった。所要時間は25分、あつという間である。空港に着いたのは午後4時30分、直ぐにレンタカーを借りて島内めぐりをした。観光らしき観光はこの時だけである。ポイント、ポイントを午後7時30分近くまで回ってこみね旅館に入った。日没後、暗くなるまでは当方とは約1時間の差がある。採集を目的にする者にとって、夜が遅く、朝も遅いということは有りがたいことである。

食後は竹富島での採集品の整理と雑談で過ごすことにした。この島は外出しても楽しく時間を過ごせる施設が殆どないからである。風呂も浴槽はあるもののシャワーで済ませて、明日の英気に備えることにした。

#### ⑤与那国島の2日目(10月20日)

まず目ざしたのはヨナグニウマが放牧されている風光明媚な東崎である。ここの野芝にはアオタテハモドキが居ついているのである。レンタカーを降り立って気になるのが風の強さである。どの島も海風が強いのは普通であるが、ことさら強く感じた。この中にアオタテハモドキが潜んでいるのである。一見、何も居ないように思ってしまうのであるが、牧場を踏みしめていくと急に飛び立つ。その時一気にネットを振ればよいのであるが、そう簡単にはいかない。一度失敗すると風にあおられて遙かかなたへ飛んでいってしまう。風のない時にはたやすいが、思うように手にすることの出来ない一種である。

場所替えである。今回の採集旅行で最も期待している宇良部岳へ向かうことにした。途中、山から降りてくる採集者に様子を聞いてみると、「さっぱりです。」との返事。まだ時間的にも早く、諦めが早い



なと思いながら山頂を目指した。NTTの鉄塔のある山頂への馬の背の尾根はこの島最良の採集ポイントである。吹き上げの蝶・迷蝶等多彩であり、蝶愛好家にとっては憧れのポイントである。

時折少雨に見舞われたが

採集には支障はない。返って採集には心地よい雨である。この雨で諦めて場所替えする採集者もいるが勿体無い話である。しかし、例年になく個体数の少ないのは台風の影響であろうか。山全体が茶色く染まっている光景は初めてであった。それでも私たちは正午近くまでねばり、それぞれ納得の行く成果を得ることができた。スジグロカバマダラの異常型(写真4)が採集できたのもこの場所である。

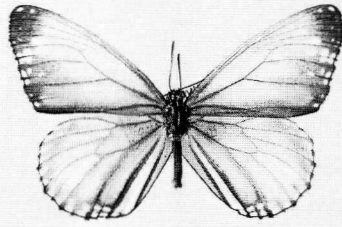
ツマベニが採集できないかと比川へ向かった。Dr.コトーで知られている比川である。ここも台風の影響を受けて花らしい花は見当たらず、ツマベニの姿も目撃できなかった。比川を諦めて森林公園を目指した。森林公園に通じる林道は風当たりも少なく、各種蝶類の溜まり場になっている。採集は出来なかったが、ツマベニを目にしたのもこの地であった。異色であったのは、草木の間を弱々しく飛翔しているクロテンシロチョウであった。この種は迷蝶の仲間であったが、今では土着しているのだろうか。かなりの頭数を三人とも採取することができた。また、チュウキウアサギの異常型か酷似した迷蝶か、この地で採集した。採集者は権田、帰宅してから同定したところヒメコモンアサギマダラ(写真5)であった。今回の採集旅行では特記すべき成果であった。台風20号がもたらせた幸運に感謝である。

この後、久部良岳へ通じる林道へ入り吹き溜まりに集まっている蝶類を求めたが、あいにくの雨である。通り雨とは異なり、雲がべったりと一面を覆っている。この雲では雨がしばらく続くと思ひ、また、ある程度納得の出来る収集成果を得たので宿舎に向かうことにした。その途中、ヨナグニサンの生態を紹介している。“アヤマヒビル館”に立ち寄り、知見を広めた。聞こえはいいが、ビデオを見ているうちに三人とも目がうつろになってきた。疲れているのであろう…。

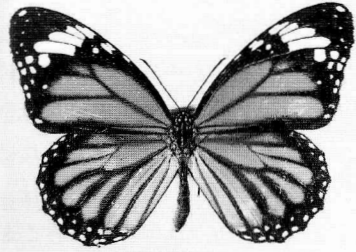
#### ⑥与那国島の3日間(10月21日)

権田・寺下にとっては最終日の与那国島である。飛行機の時間も気になり、採集地を1か所に絞って行動することにした。数名が入山してネットを振っていた。私たち三人はこれまでの実績も在り、時間が来るまで思い思いにネットを振ることにした。ここに飛翔している蝶類は、台風で痛めつけられた木々から再び芽吹くと共に発生しだしたものである。それだけに新鮮な個体が多かった。子どもへのよい土産である。

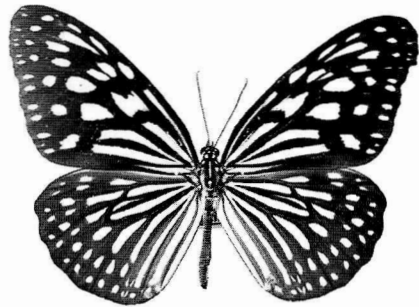
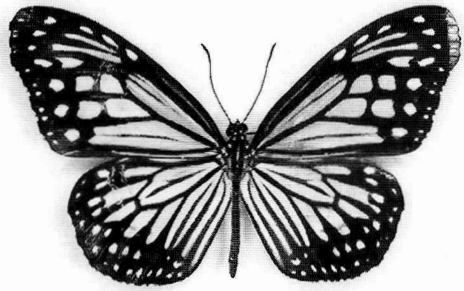
午前10時20分にネットを納め、レンタカー店舗に



(写真4) 鱗粉剥離タイプ



(写真4) 標準タイプ



(写真5) ヒメコモンアサギマダラ♂(上)  
(参考) リュウキウアサギマダラ♀(下)

向かった。この主人は当地の迷蝶収集家として知られている方である。料金を精算して与那国空港へ向かった。この後、権田・寺下は石垣を経て帰路へ、水野は再度与那国島と波照間島を挑戦することになった。島は魔物である。風あり、波あり、欠航あり、いつ何時島流しに遭うか分かったものではない。計画通りに日程を消化できれば御の字である。お互いの無事を願いつつ分かれることにした。

水野は終日、宇良部岳山頂に通じる馬の背尾根でネットを振ることにした。途中、寺下・権田を乗せたジェット機が頭上を通過するのを見送り、一抹の不安を感じた。しかし、ゆったりとした姿で南国情緒を満喫させてくれるオオゴマダラ、翅の先端が強くとがり裏面が枯葉に似た色合いのタテハモドキ等を採集して元気を取り戻すことができた。採集・観察を十分堪能して心温まる思いで旅館に向かった。

#### 4) 波照間島

##### ⑦波照間島での1日目 (10月22日)

朝から小雨模様。波照間島への渡航の日である。採集は諦めて移動の準備をする。そんな中で頭をよぎるのは八重山の他の島々とは異なる与那国の景観、長い歴史と伝統を持った風土であった。思い立ち、与那国教育委員会を訪問。「与那国島文化財団及び歴史巡り」についての説明とコピーをいただいた。親切な対応に感謝し、また何時の日にか与那国をと思いながら島を後にした。

石垣港から波照間港までの所要時間は1時間。縦揺れ、横揺れ、波の強さとエンジン音でこの先が思いやられた。しかし、思いはガイドブックで知った「気流に乗って時々珍しい蝶もやってくるので、蝶の好きな人には注目の島」の一点である。

港に降り立って、こんな風の中に蝶が棲息しているのであろうかと心細くなるほどの風の強さである。民宿みのる荘の出迎えを受け、周辺の様子を観察しながら宿に入った。さっそくレンタカーで島内巡りをした。珍しい貝やサンゴが打ち寄せられている美しい海岸、キビ畑が続くのどかな風景には心が癒される思いであった。民宿の心温まる“幻の泡盛”の接待も楽しい。心細さから期待へ、そんな心の変化を感じながら日本最南端の夜を過ごした。

##### ⑧波照間島での2日目 (10月23日)

午前8時30分にレンタカーで出発。天候は風はややあるものの晴れ。意気込んで最初のポイントである集落の南地区に向かった。常に風の強い島であるが、ここは福木に風をさえぎられた蝶のオアシスである。スジグロカバ・シロオビ・リュウキュウアサギ・アサギマダラ・ベニモンアゲハ等々、個体数は多い。与那国では昆虫採集者に出会ったが、この島は皆無である。一人天下といったところである。

西浜入り口のポイントは防風林が発達している。内側の吹き溜まりがポイントになる。風を受けている所からこのポイントに入ると、急に各種の蝶類が飛び立ってくる。ここでオオゴマダラ5頭を採集して一息入れる。この地のリュウキュウアサギは他島より色彩が鮮やかに感じられる。堪能できるポイントであった。

ぶりぶち公園は期待はずれであったが、500m程離れた墓地の敷地内でシロオビアゲハとベニモンアゲハの大群に出会った。ベニモンアゲハなどは2~300頭程の乱舞であり感極まる思いであった。午後3時、充足感に満たされながらネットを納めた。その後、名勝地を回りながら土産物を手にして民宿に帰った。

夜は夜で、夕食後民宿のバスで「星空観測タワー」に向かった。日本最南端の地で見る星空はまた格別である。昆虫採集を目的として各地を訪れる機会があるが、昆虫以外にも多くの知見を得る事ができることはこの上ない幸せである。研究会の方や家庭の理解と協力に感謝の思いで一杯である。今宵も…と思いながら眠りにつく。

##### ⑨波照間島から帰路の途へ (10月24日)

昆虫採集旅行最終日である。時間的にはまだ採集できる余裕があったが、後ろ髪を惹かれる思いで帰宅準備に取りかかった。手荷物の一部は波照間郵便局から“ゆうパック”で発送する。これも一つの手である。色々学ぶことも多かった今回の採集旅行。この経験をどう生かしていくかが課題であると感じながら機内に入った。

#### 4.おわりに

八重山諸島を採集地に選択した場合に、まず頭をよぎるのは台風のことである。何度訪問しても多かれ少なかれ台風の影響を受けている。惨めなのは直接台風に出会うことである。最低3日間は身動きが取れなくなってしまう。台風の前後の場合も船の欠航で希望の島へ渡れないことがある。

今回の訪島では台風20号の動向を心配したが、幸いにも八重山諸島を外れたので計画通り実施することが出来た。しかし、これまでの台風の影響を島全体が受けていたことを実感せざるを得なかった。台風を直接に受けるか、台風前後の渡航不安定な時か、台風が過ぎて草木が芽吹き蝶類が発生しだした時か、草木が生い茂り蝶類の発生のピークの時はその時の運である。私たちの訪島は、蝶類が発生しだした直後であり、納得できる採集もできて運がよかったと思いたい。

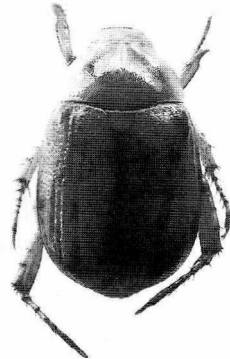
八重山諸島は当地とは気候風土がまったく異なる。蝶類もしかり。何度訪島しても飽きることはない。常に感動を与えてくれる島々である。この年に1度、否、数年に1度の訪島が再度地元の昆虫に目を向ける気持ちを高める契機ともなるのである。また何時の日か訪島できることを夢見て子どもとともに地元の昆虫に接する今日この頃である。

## 三河港埋立地でチビサクラコガネを確認

山崎 隆 弘

愛知県におけるチビサクラコガネ *Anomala schoenfeldti* は、渥美半島から豊橋市石巻山にかけてと、知多半島など海岸部に見られる小型のコガネムシである。このたび、筆者は三河湾の埋め立て造成地の植栽林から見出したので報告する。(図示した個体)

採集記録：愛知県豊橋市新西浜町 27-V-2005. 1ex. 山崎隆弘。



#### ☆三河昆虫研究会への入会案内☆

三河昆虫研究会は、会報「三河の昆虫」を年1回と連絡紙の「三河の昆虫(通信)」を複数回発行し、地域の昆虫相の解明につとめています。入会希望のかたは、年会費3,000円を添えて下記あて申し込みください。